

2025年度教育研究活動報告会

2025年12月17日（水）

「心で工学」を合言葉に、
ものづくり ひとつづくり 未来づくり



ものづくり ひとつづくり 未来づくり

1
国立大学法人
名古屋工業大学

中京地域産業界との共創 ミッション・ビジョン

名古屋工業大学憲章

▣ 基本使命 ▣

名古屋工業大学は、日本の産業中心地を興し育てることを目的とした中部地域初の官立高等教育機関として設立されたことを尊び、常に新たな産業と文化の摇籃として、革新的な学術・技術を創造し、有為な人材を育成し、これから社会の平和と幸福に貢献することをその基本使命とする。

▣ ものづくり ▣

名古屋工業大学は、構成員の自由な発想に基づく実践的かつ創造的な研究活動を尊ぶとともに地球規模での研究連携を推進し、既存の工学の枠組みにとらわれることなく、工学が本来有する無限の可能性を信じ、新たな価値の創造に挑戦する。

▣ ひとづくり ▣

名古屋工業大学は、自ら発見し、創造し、挑戦し、行動することで、工学を礎に新たな学術・技術を創成し世界を変革することのできる個性豊かで国際性に富んだ先導的な人材の育成に専心する。

▣ 未来づくり ▣

名古屋工業大学は、国民から負託を受けた開かれた大学として地域および国際社会との調和と連携を重視し、ものづくりとひとづくりを通して平和で幸福な未来社会の実現に向けて邁進する。

「心で工学」

第4期中期目標期間のビジョン

「心で工学」により
社会変革を先導する大学を目指して

中京地域産業界との共創



中京地域産業界との共創 ミッション・ビジョン



数字から知る 数字でわかる名工大

学生数・教職員数データ

学生数・ 教職員数

学生数



約18%
が女子学生

5,770名

- ◇工学部: 3,947名
- ◇工学部(夜間主): 105名
- ◇大学院工学研究科
博士前期課程: 1,517名
博士後期課程: 201名

役員・教職員数



約24%
が女性

523名

[2025年5月1日現在]

- ◇役員: 6名
- ◇教員: 340名
(特定有期雇用職員を含む)
- ◇一般職員: 177名

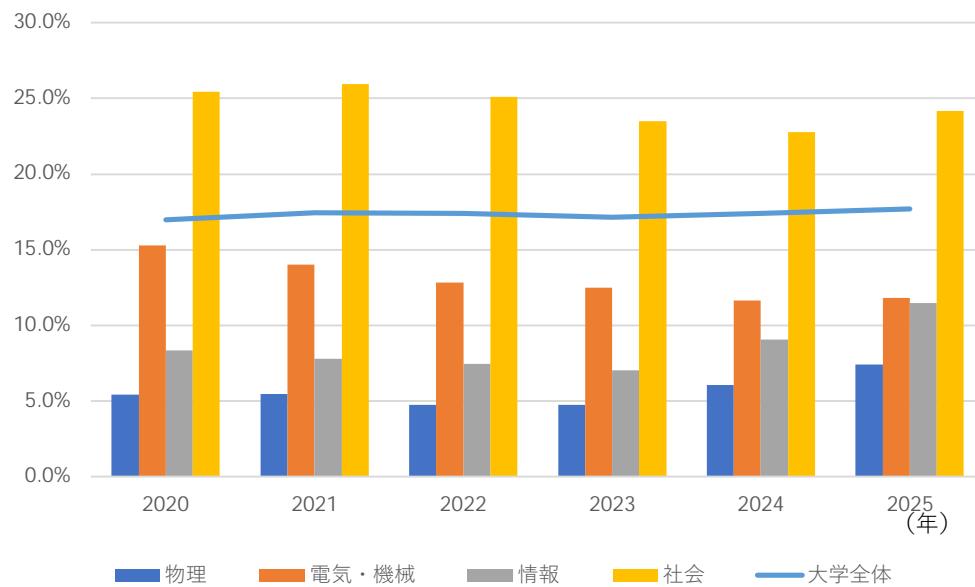
女子推薦入試の拡大

女子特別推薦

2023年度以前	
学科名	募集人員
電気・機械	15名
計	15名

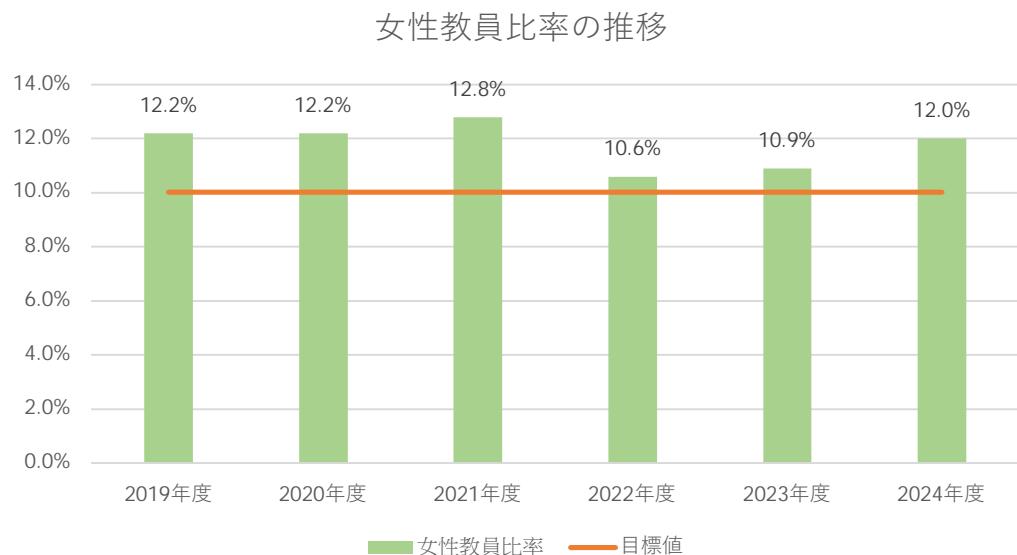
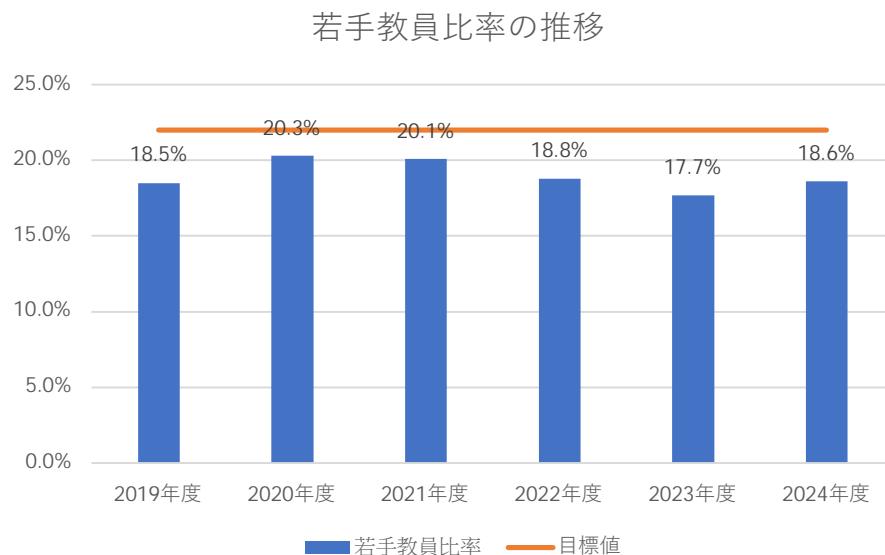
2024年度以降	
学科名	募集人員
物理	5名
電気・機械	15名
情報	5名
社会(環境都市)	3名
計	28名

女子学生比率の推移



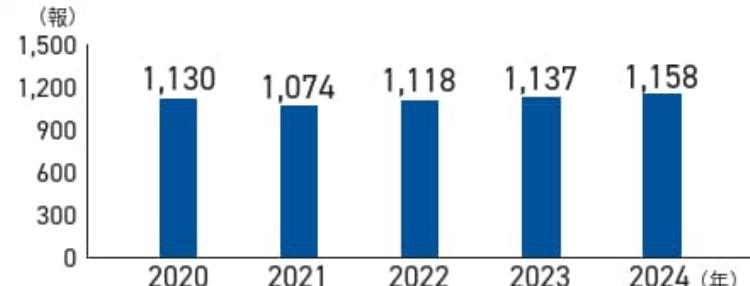
若手教員比率・女性教員比率の目標と現状

本学独自のスタートアップ助教制度や、
教員公募で、「若手限定」「女性限定」の条件を付与する等の取組により、
目標達成を目指しています。



研究のデータ

◆ 論文数



※Scopus(エルゼビア社)および学内研究者データベースより取得した
英語及び日本語論文(査読有のみ)(2025年7月)

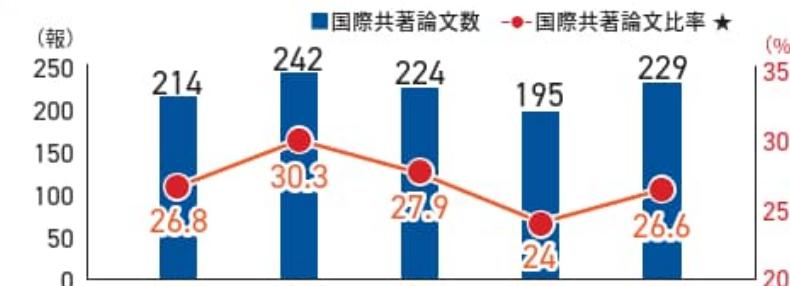
◆ TOP10%論文



※Scopus(エルゼビア社)より取得(2025年7月)

※TOP10%論文:論文の被引用数が各分野の上位10%に入る論文

◆ 国際共著論文



※Scopus(エルゼビア社)より取得(2025年7月)

◆ 高品質ジャーナルへの掲載論文



※Q1ジャーナル論文:エルゼビア社が提供するジャーナルの評価指標「CiteScore」が、各研究分野において上位25%以内のジャーナルに掲載された論文(2025年7月)

※NATURE INDEX:SPRING NATURE社が提供する、世界中の研究機関や国が発表した高品質な自然科学・健康科学分野の論文数とその貢献度をもとに評価されるランキング

★Scopusより取得した英語論文数における、TOP10%論文、国際共著論文

産学連携データ



◆ 研究者 1人当たりの
研究費受入額
(民間企業との共同研究に伴う)※

2,074 (千円)



◆ 地域社会との産学連携関係
(同一県内企業及び地方公共団体との
共同・受託研究実施件数(地方別))※

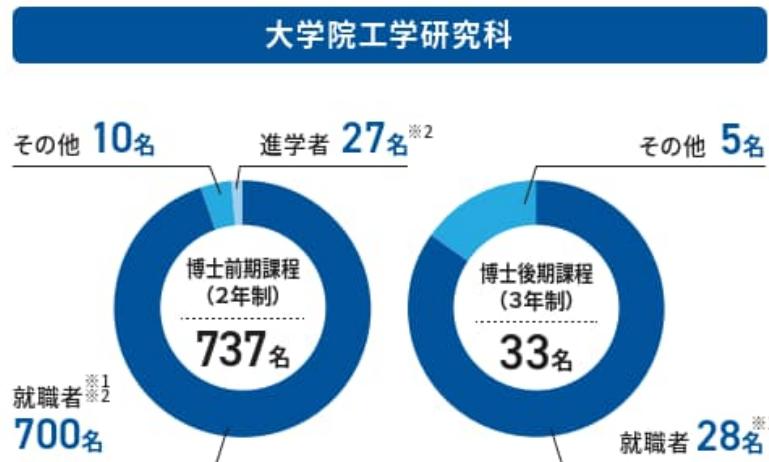
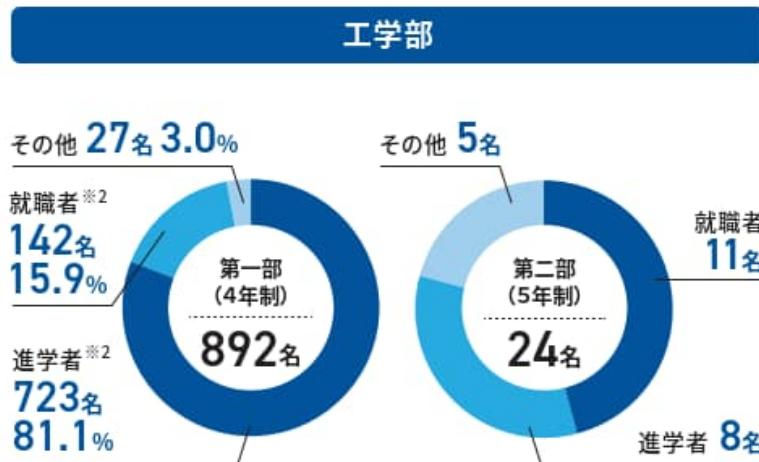
131 件



※全国の大学等対象1,074機関における2023年度実績の順位。文部科学省「令和5年度 大学等における産学連携等実施状況について」2025年(令和7年)2月14日公表。

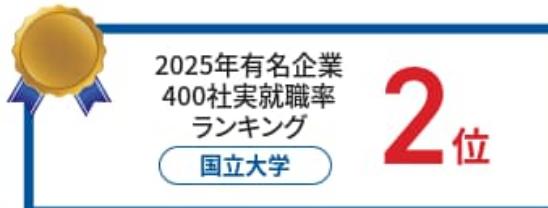
進学・就職データ

※2024年度卒業・修了者



※1 現職者26名(博士前期課程13名、博士後期課程13名)を含む。※2 就職進学者(第一部1名、博士前期課程1名)を含む。

学部(第一部)
約81%が進学。



(大学通信調べ)

未来への投資、 学びを質を守る授業料改定

2025年9月 首都圏以外で初の授業料改定を決定

○授業料の改定

課程		現行	改定後	改定時期
学士課程	高度工学教育課程 創造工学教育課程	535,800円	642,960円	2026年4月 入学者から適用
	基幹工学教育課程	267,900円	321,480円	
博士前期課程		535,800円	642,960円	2027年4月 入学者から適用

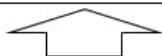
※編入生及び転入生については、2028年4月入学者から適用

※博士後期課程については据え置く。

○大学独自の修学支援制度

※下記の表は、両親（給与所得者と無収入）・本人・弟又は妹の家族4人世帯で自宅通学の場合の
世帯年収の目安額。免除の基準を満たす世帯年収は家族構成等によって異なる。

課程	収入基準額の目安
学士課程 (2026年4月入学者より)	世帯収入約460万円以下の者は全額免除、約670万円以下の者は半額免除 にそれぞれ申請可能 ※編入生及び転入生については、2028年4月入学者から適用
博士前期課程 (2027年4月入学者より)	世帯収入約480万円以下の者は全額免除、約700万円以下の者は半額免除 にそれぞれ申請可能



授業料の免除については、学生の申請に基づき、審査を経て決定される。

- 授業料改定による増収で学生の修学環境と教育内容を充実させ、自立した技術者・研究者を育成するという本学の使命を果たす。

(参考：2030（完成年度）における増収額 5.5 億円)

事 項	2030年度にて 想定される必要額	授業料改定 活用額
○ 最先端で高度な学修基盤への更新 教育設備導入・更新による高度な教育の実現、最先端の実習機器の整備、最新の研究データベース、学習情報へのアクセス など	2.7 億円	2.7 億円
○ 安心・安全と快適なキャンパス環境への整備 通信を含むインフラ整備・更新、課外活動環境の整備・充実 など	4.6 億円	1.7 億円 ※不足分は学内経費の見直しにより充当
○ 未来社会を創造する工学人材教育の拡充 数理・データサイエンス・A I 教育の充実、イノベーションマインドや国際性を向上させる教育の拡充、教育力強化のための教員・支援職員の体制整備 など	1.1 億円	1.1 億円

※必要額は算定時点における想定額

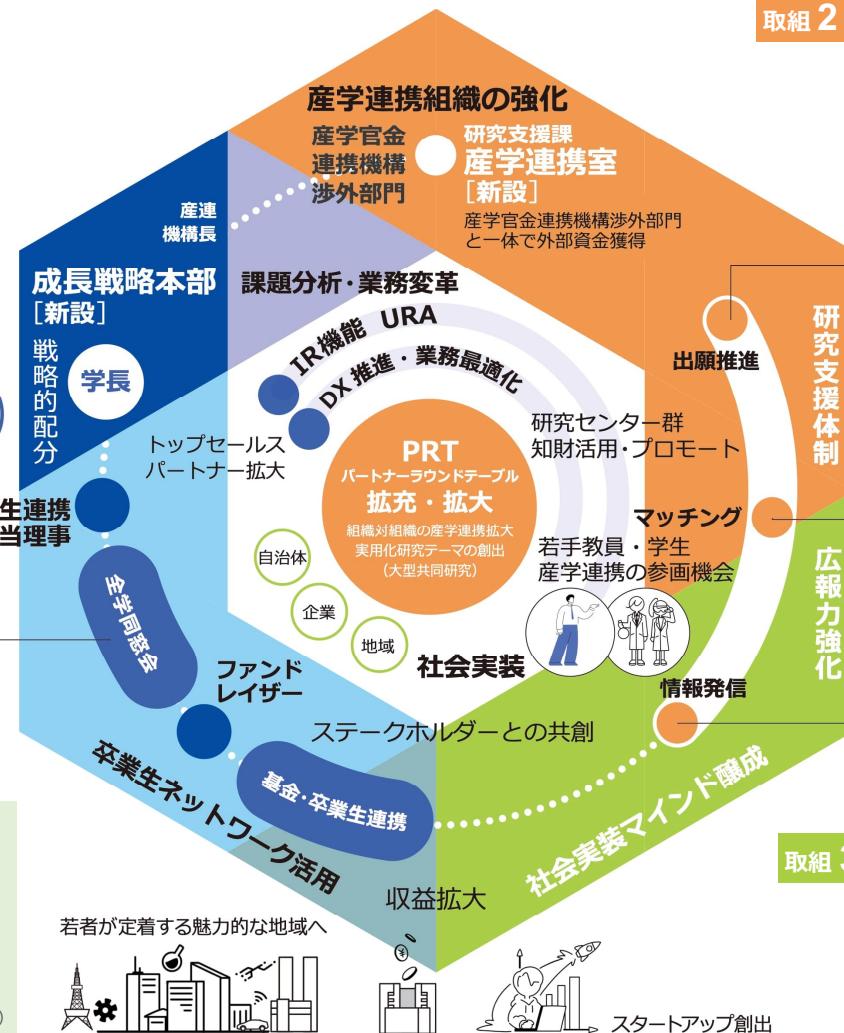
社会実装力で未来を拓く、 名工大の挑戦

国立大学改革・研究基盤強化推進補助金の採択

取組 1

大学経営の好循環を実現するガバナンス

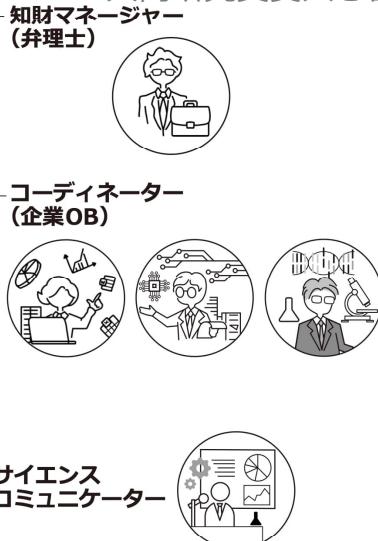
- 成長戦略本部の設置
- 戦略的配分
- 卒業生連携強化



取組 2

研究工コシステムの強化と「組織」対「組織」の産学連携の拡大

- 産学連携体制の強化
- 組織対組織の産学連携を拡大し、共同研究費受入を増加



取組 3

広報力強化と若手教員の社会実装マインドの醸成

- 研究成果の社会共有
- ステークホルダーとの共創活動
- 学内の社会実装マインドの醸成

名古屋から世界へ、
技術と人を届ける大学

国際化の現状



外国人
留学生数

200
名

33
カ国・地域



派遣留学生数

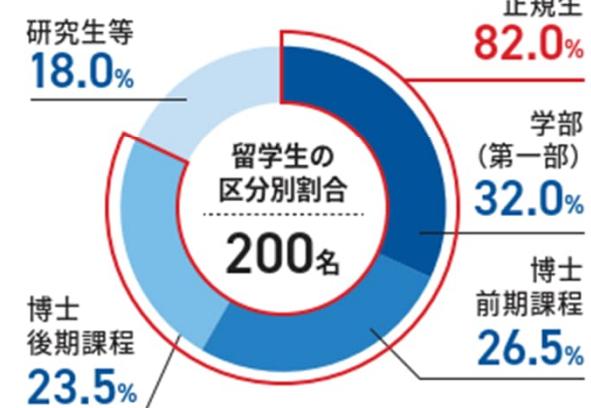
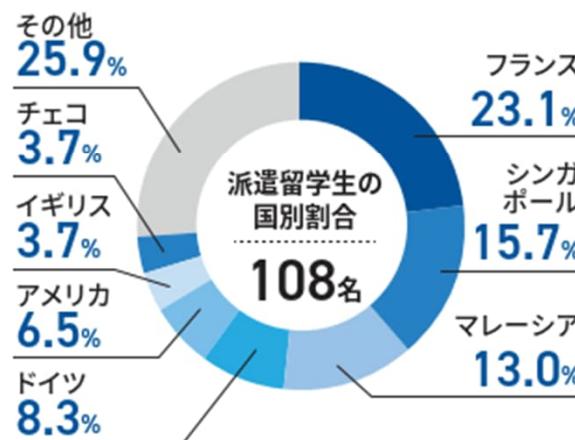
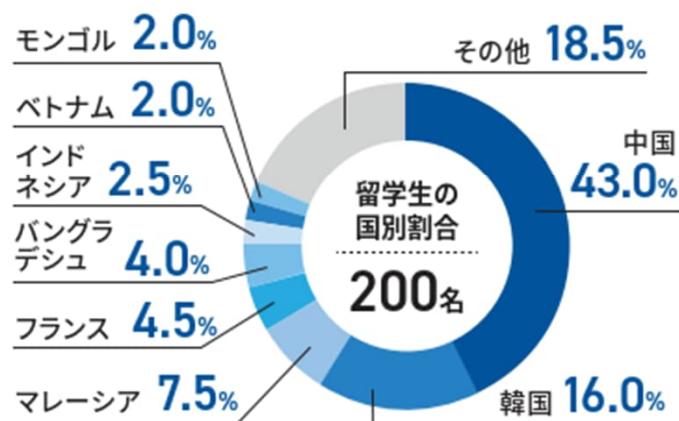
108
名

22
カ国・地域

大学等
学術交流協定

106
大学等

37
カ国・地域



名古屋工業大学国際戦略の策定



留学生懇談会「NITech Global Campus Connect」での集合写真

未来を創る研究 私たちの生活を豊かにする発見

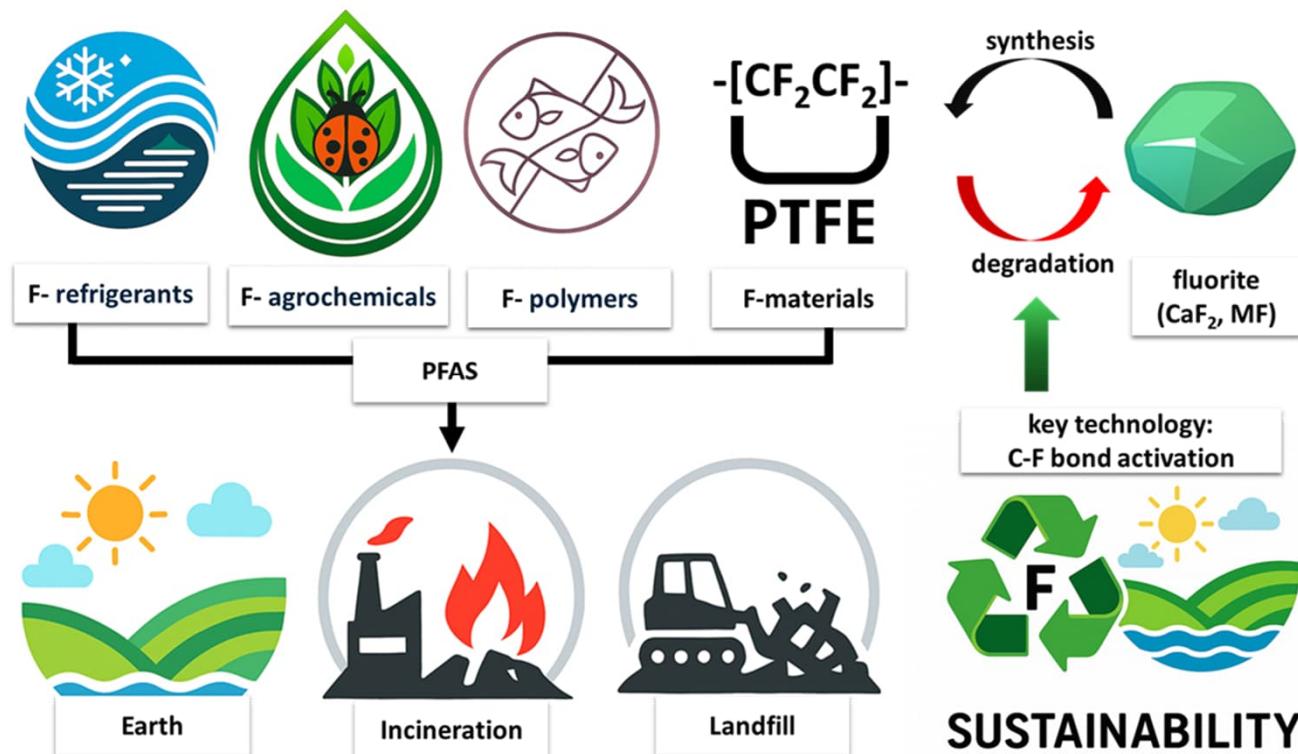
触覚技術で伝統工芸を未来へ — CraftTouchプロジェクト、大阪・関西万博に出展



(写真提供：田中由浩教授)

医薬・材料・環境をつなぐ革新 — PFAS代替の新コンセプト提案

PFASを室温・1時間で“フッ素原料”に再生
—フルオロ・サーキュラー・エコノミーを切り拓く画期的技術を確立—



2025年

*N. Shibata et.al.,
Chemical Reviews (2報, IF 55.8)
Nature Chemistry (1報, IF 20.2)
Nature Communications (2報, IF 15.7)
J. Am. Chem. Soc. (3報, IF 15.6)*

主要論文 >380報

文部科学大臣賞

GSC賞 文部科学大臣賞

日本化学会学術賞

日本薬学会学術振興賞

ACS賞 (米国)

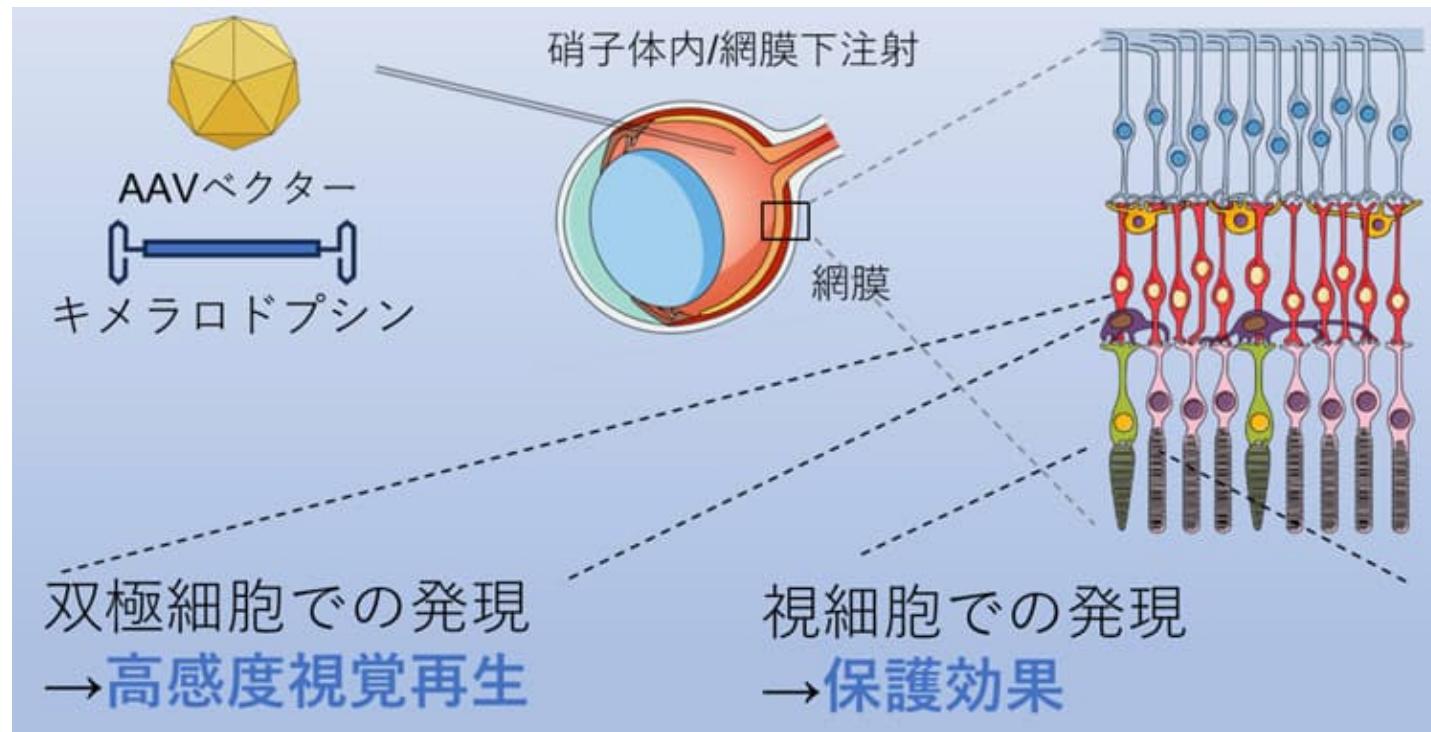
RSC賞 (英国)

CCS賞 (中国)

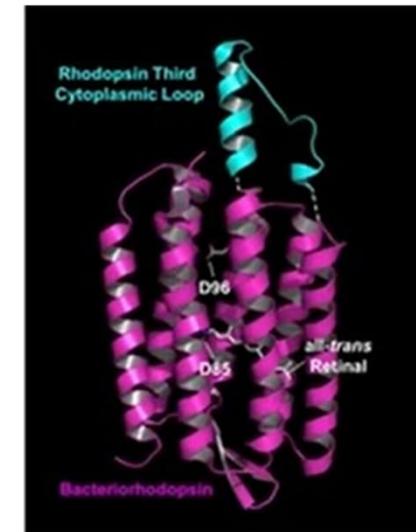
など受賞多数。

(画像提供：柴田哲男教授)

失明患者さんに光を届ける—キメラロドプシンが拓く新しい治療



(画像・写真提供：神取秀樹特別教授)



11月14日朝日新聞ウェブサイトより

プラスチックに“第二の命”を— サステナブル社会を支えるポリマーの挑戦

ビトリマー：「結合交換」が起こる架橋樹脂

新規分子設計・機能開拓・基礎物理の重要性
+ アップサイクル技術への展開

Progress in Polymer Science



ビジネスとしての成立条件：リサイクルコストを上回る付加価値

従来の経済システム



ゴミ問題やそれに因んだ
環境汚染など負の側面

先進的経済システム



「廃棄」という考え方を廃棄
= サーキュラーエコノミー

↑
廃棄樹脂から物性向上・機能を付与した
高付加価値樹脂（アップサイクル）

結合交換技術を活かした実効的なリサイクルシステム構築へ

（画像・写真提供：林幹大助教）

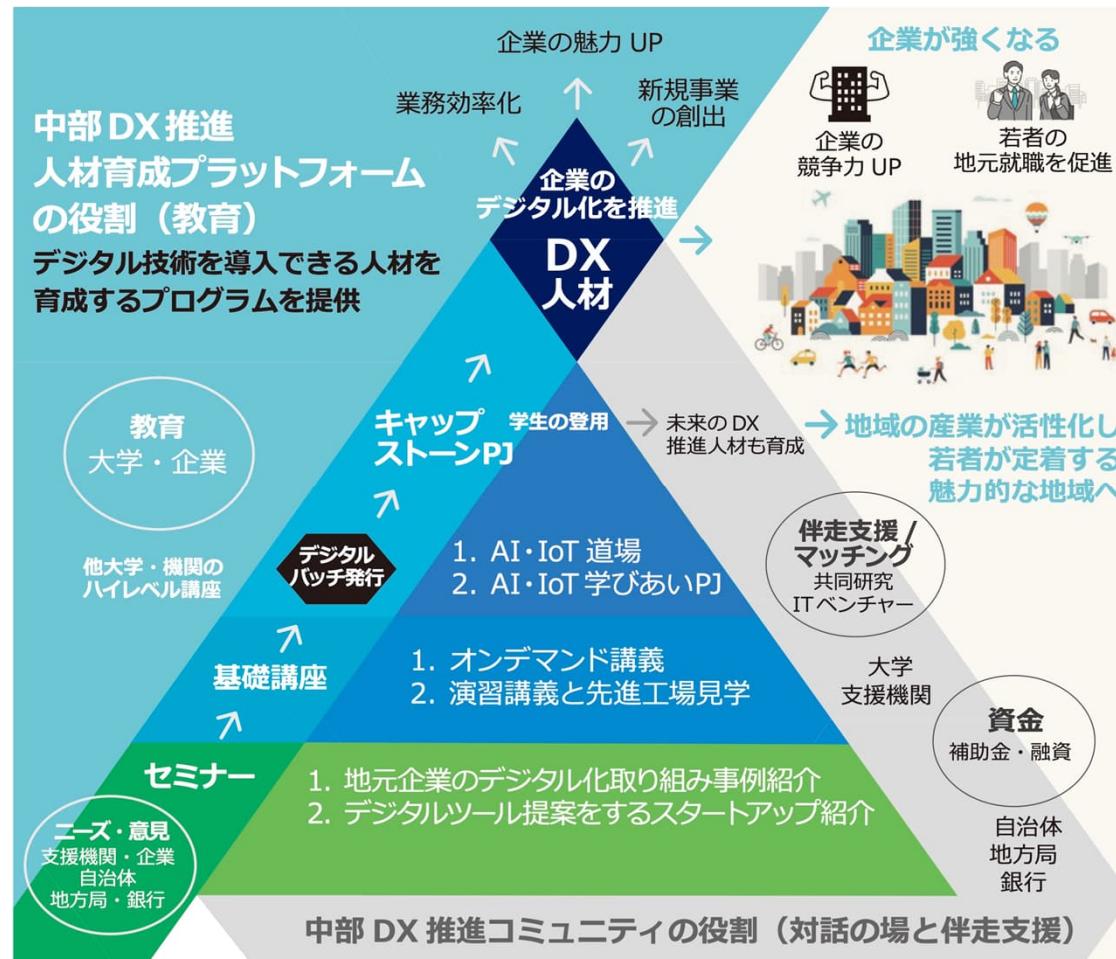
地域と共に歩む 大学の社会連携活動

地域と世界をつなぐ博士人材 — C²-FRONTSが描く高度人材育成と共創のプラットフォーム



東海・信州における博士人材の活躍促進に係るコンソーシアム会議（第2回）

学び直しで未来を創る、DXで地域を動かす — 社会人の挑戦を支える名工大のリカレント教育



御器所が丘にアートの風を アートフルキャンパス構想

名古屋工業大学+愛知県立芸術大学が歩む世界

ARTFUL CAMPUS

名古屋工業大学
+
愛知県立芸術大学

アートフルキャンパス 名古屋工業大学賞



Walking Ship、Standing Ship
(展示終了)



水の星
(11/10～12/17 2号館1階F+GALLERY展示)

アートフルキャンパス 活動紹介



6月10日開催
第1回共創講座打楽器

7月28日開催
自動演奏ピアノ名作選

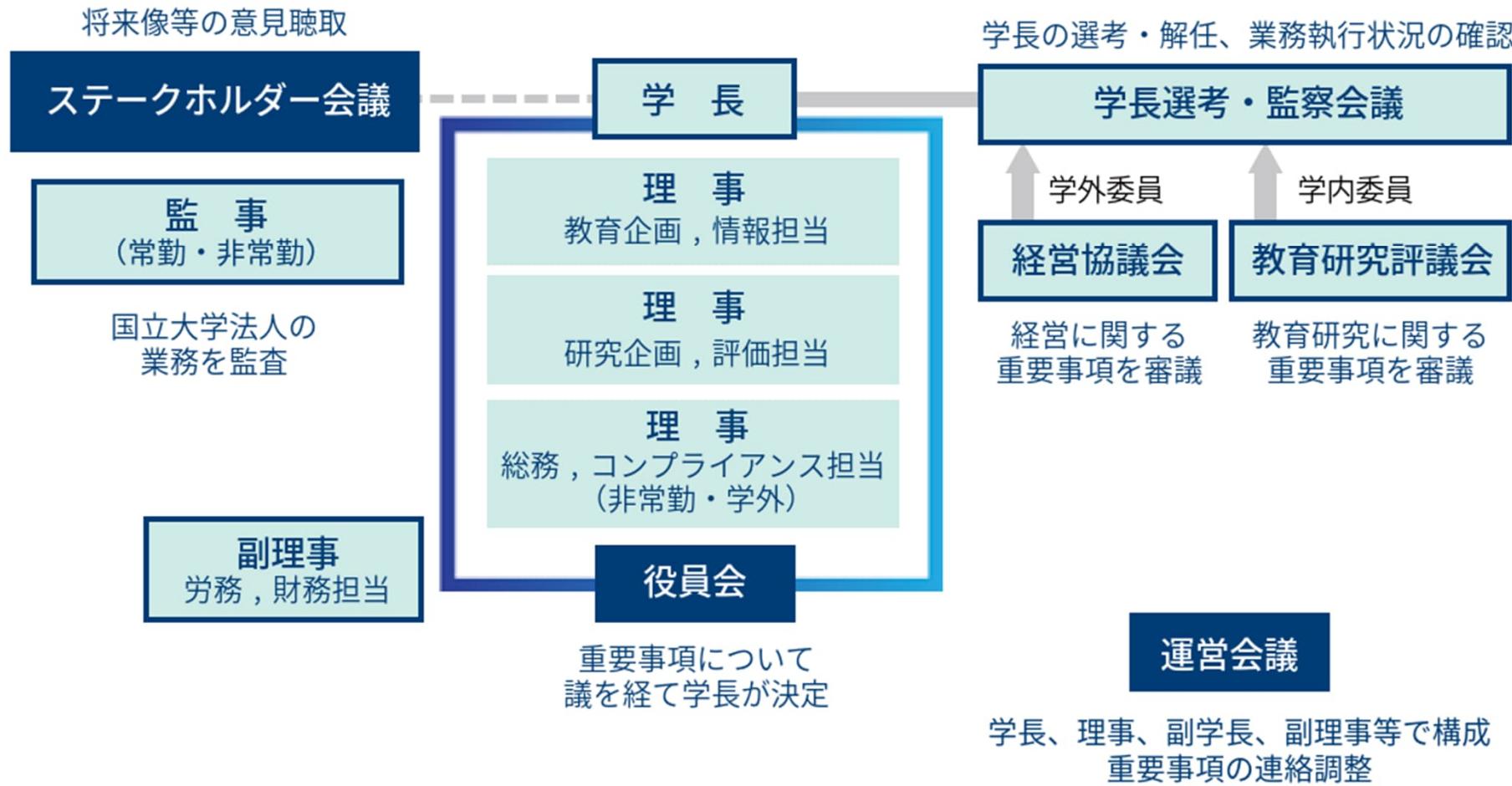


10月28日開催
第2回共創講座金管楽器

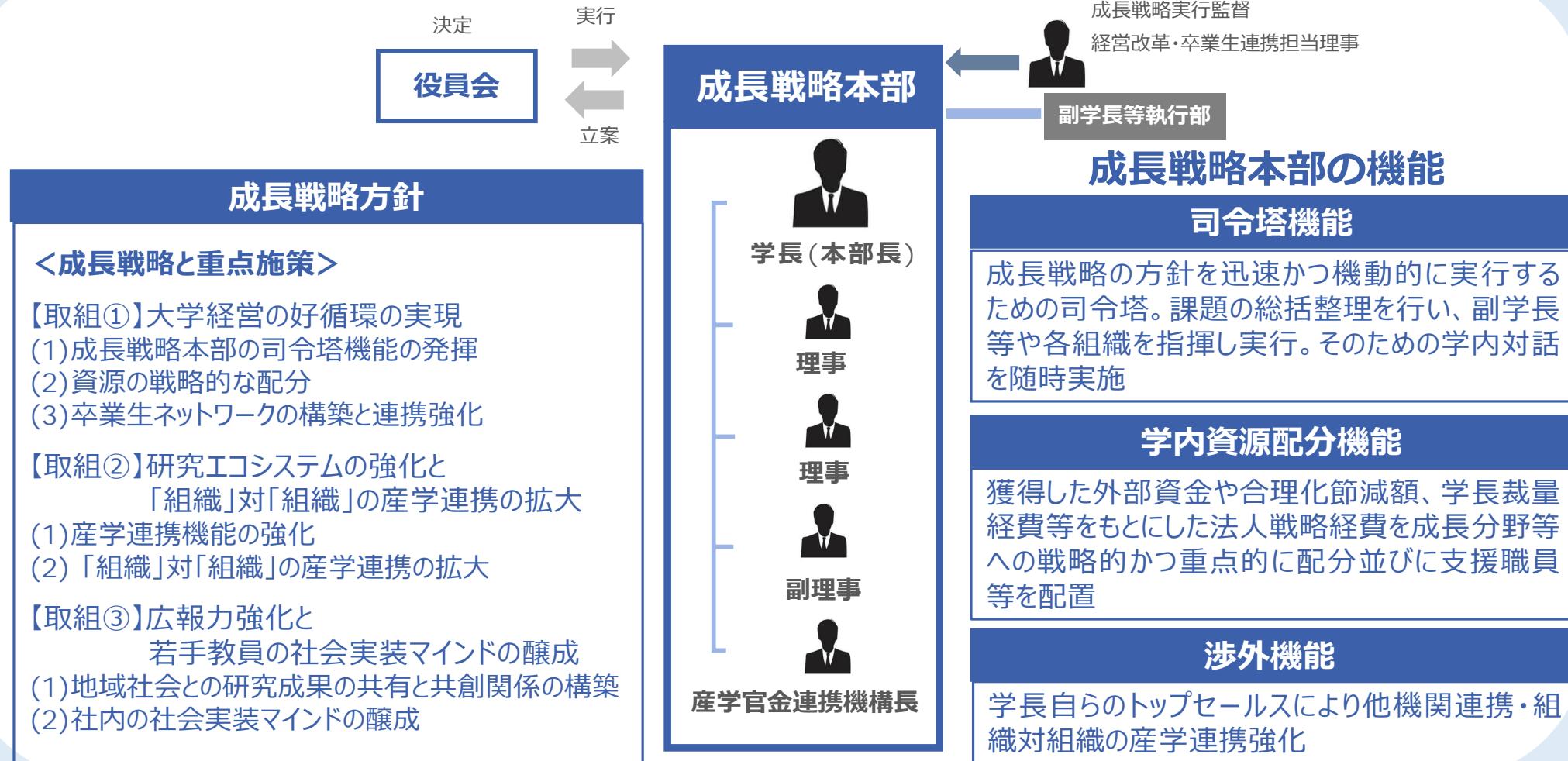


ビジョンを現実にするガバナンス 名工大の新しい意思決定モデル

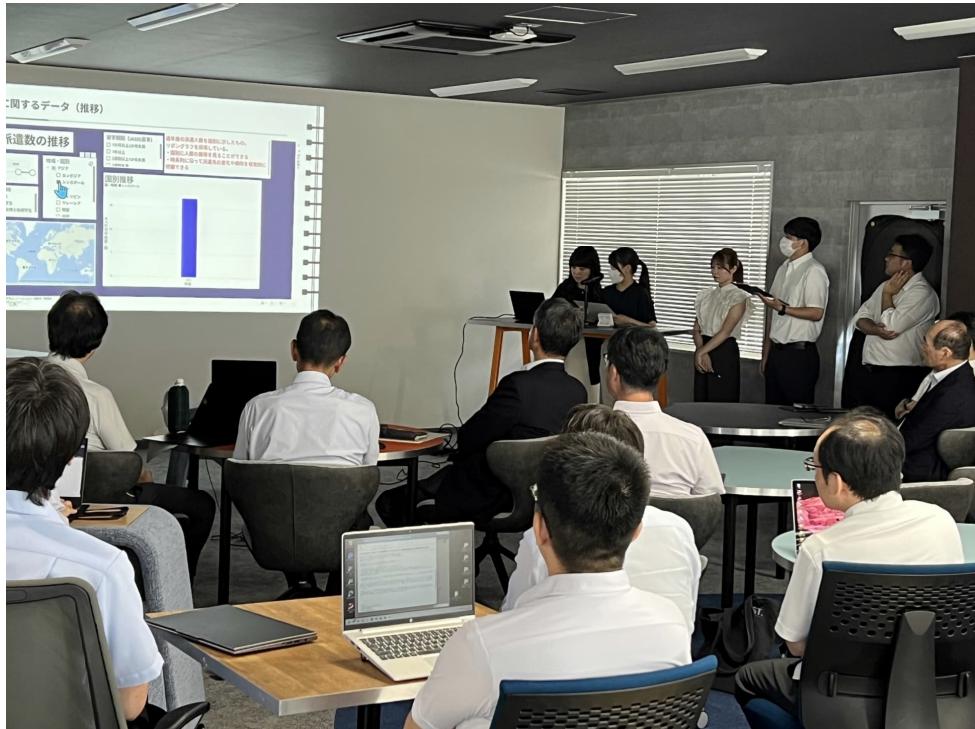
ガバナンス体制



成長戦略本部の設置



学内DX推進—業務効率化と学生サービス向上



DXチームによる成果発表会



室蘭工業大学による講演会

その他トピックス

陸、海、空へ、そして人へ—どこへも動く住まいが世界をつなぐ

インスタントハウス



陸：トラック輸送



海：ボート輸送



空：ドローン輸送



- ・2024年の能登半島地震と能登半島豪雨の直後に現地へ即時供給し、先駆性・廉価性・簡便性・速度性・技術性・汎用性が評価され、各種の報道と受賞
- ・トラック搬送・船牽引・ドローン空輸の陸海空での移設実証、低コスト短工期化に成功 (<https://www.facebook.com/kitalab>)
- ・「地球上で家に困る人々が快適で丈夫な家をもつあたり前を実現する」に向けて、さらなる軽量化／低コスト化と環境負荷ゼロ建築を研究
(写真と動画の提供：北川啓介教授、株式会社LIFULL ArchiTech (名工大発ベンチャー) <https://instanthouse.jp>、<https://lifull.com/news/45121/>)

人材と技術が交わる場所—名工大とSTATION Aiの挑戦



(左) 2025年6月27日STATION Ai内の調印式
(右) STATION Ai「名古屋工業大学とSTATION Aiが連携へ【前編】」
(<https://stationai.co.jp/magazine/report20250715>、最終閲覧日：2025年12月9日)

寄附のお願い

世界へ羽ばたく多くの学生・研究者を支援するため、皆様からのご寄付・ご支援をお願いいたします。

基金の種類と事業内容

一般基金

- ・学生への支援
- ・学術研究振興の助成
- ・社会貢献活動への支援
- ・国際交流の推進
- ・教育研究環境等の整備充実等

特定基金

- ・あらかじめ使途を限定した特定の活動を支援
- ・ひとづくり未来基金
- ・若手研究者支援基金
- ・アートフルキャンパス整備基金
- ・女性活躍支援基金
- ・地球上で家に困る人々へのインスタントハウス基金
- ・課外活動等の支援基金
- ・その他の活動の支援基金

現物資産基金

- ・大学運営
- ・学生への支援
- ・教育研究活動への支援
- ・社会貢献活動への支援
- ・研究成果の普及及び活用の促進

2024年度 基金の活用実績

一般基金

活用額 **71,011,409円**

一例

- ▶ 博士号取得を目指す修士学生が国際学会(海外)で発表する際の旅費等の一部を助成(7件)
----- **1,800,000円**

- ▶ 学生に対し、海外での活動を支援するために渡航旅費・滞在費を支援(50名)
----- **13,050,000円**



特定基金

活用額 **23,936,516円**

一例

- ▶ ひとづくり未来基金(修学支援基金)
経済的理由により修学困難な学生を支援(16名)
----- **2,256,000円**



- ▶ 課外活動応援基金(19団体)
硬式庭球部 テニスボール購入費等
ヨット部 ヨット修理費、遠征費等
----- **12,555,902円**



名古屋工業大学レポート2025のご案内

より詳しく 名工大の事が知りたい方へ

ステークホルダーの皆様に向けて、
「名古屋工業大学レポート2025」を発行しました。

本学の教育研究・社会貢献活動、
財務などの情報をわかりやすくお伝えし、
本学をご理解いただくための入り口となっております。

ぜひご覧ください。

詳しくは、
本学公式サイト > 大学案内 > 名古屋工業大学レポート

